

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀Ⅱ きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-28		
自己評価作成日	平成28年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500377-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご本人、ご家族の想いを大切に、その人らしく生活をして頂いている。(生活歴をしっかり把握し、生かしている。)
 ・ご家族との信頼関係を大切にしている。また、「第二の家」として選んで良かったと思って頂けるよう、支援をしている。
 ・年に1度家族会を開催し、年間行事や日常生活での一人ひとりの入居者様の様子を詳しくお伝えできるように、映像にまとめて鑑賞していただいている。
 ・兼務の看護師が在籍していることで、医療面のケアも行っている。ホームで出来る範囲は限られるが、最善のサポートを心がけている。(ターミナルにおけるケアについても含む。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは開設して15年目を迎えている。管理者の母体法人内の勤務は16年、以前、このホームには7年居て、また戻ってきて昨年の4月から管理者になりまだ1年経ってないと笑う。管理者に今後の抱負を聞くと「課題は色々あるが、インテリアが15年ずっと変わってない。インテリアの方法を変えれば利用者が動き易くなる。また、スタッフも動き易くなり利用者との触れ合いも増える」との答えが返って来た。評価者の目から見れば利用者はそれぞれ思い思いで働いている、スタッフもそれなりに動いて利用者や触れ合っているように感じられた。当日見た様子ではスタッフの言葉遣いは優しいし支援も丁寧であるとも感じられた。しかし、若いながら、法人で長年働いてきた新管理者には「現状への不満」ではなく「ケア・支援に対する思い」があるものと思われる。確かに「運営」は同じことを繰り返していたのでは進歩がない。単なるマンネリ打破ではなく、新たな環境作りをして、このホームの利用者の支援をさらに充実させたいと思いでであると想像する。どのように変化したのか、次回の訪問が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします。」という理念の下、ミーティング等で意識統一を図り、入居者一人ひとりの生活、想いを大切に出来るよう努めている。	左記の理念遂行のために「プライバシー保護・本人のペースを守る」との小目標を立てている。その上に8項目のケア訓がある。職員は理念を意識して利用者がホームで生き甲斐を持ち安心して過ごせる様、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が悪く難しいが、運営推進会議を通じ、地域のサロンへ参加させてもらっている。地域としては小規模だが、近隣のGHや同施設内の入居者の方々が訪問されるなど、交流が定着している。	ホームの法人母体の敷地内には母体の病院を始め、ケアハウス・老人保健施設のほか複数の事業所があり、小高い丘にある「敷地」自体が「地域」となっており地区の「医療・福祉」のシンボルとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やサロンへの参加などで少しずつ改善されている。また、地域包括支援センター主催の研修会にも参加し、認知症に対する理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	私達ができること、地域の方が望んでいることなど、運営推進会議やサロンを通じて話し合いをしており、今後も継続していきたい。	運営推進会議は敷地内の4グループホーム合同で開催されており岡岡市の職員や地区の民生委員等が参加している。民生委員からはサロン始め多くの地区の情報が寄せられる。ホームからは状況報告を写真付きで公表し、地区の協力をお願いしている。	議事録上では地区の参加者が民生委員だけになっているが、老人クラブや愛育員等の地区の団体の参加を呼び掛け輪を広げてはどうだろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、また必要時には連絡を取り、市役所を訪ね相談をしている。	ホーム開設以来15年が経とうとしており市との関係は深まっている。市も福祉の事には熱心で最近、関心の高い「高齢者虐待問題・若年性認知症問題」等の講座を開いておりホームの職員も機会ある毎に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同施設で行っている委員会に参加し話し合ったことや、外部研修で学んだことを持ち帰って、ミーティングで報告し職員間で話し合っている。身体拘束は行っていない。	グループ内で身体拘束委員会が開かれており参加者が記録を持ち帰り職員で共有している。外部の研修会にも積極的に参加している。職員のケアは優しい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同施設の委員会や勉強会等をもとに、ミーティングや日常の中で話し合ったり、意見を出し合っている。また、同施設での情報交換を行い、虐待防止に日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加することで理解していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について見学、相談時、入居時にきちんと伝え、ご家族からの相談も受けている。また、契約の解約、改善等の際も、都度書面や口頭で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に比較的良く来て頂いており、しっかり話が出来た時間を設けている。ご家族の方々より、遠慮なく要望を言って頂けるよう、今後もご家族の方々との関わりを充分にもち、信頼関係をより築けるよう努めていきたい。また、ご家族とのやりとり等は記録に残し、職員間で共有している。	ホームには家族からの相談や要望があった時に、その時の会話のやり取りを事細かく記録している。それに基づき、家族の意向は即座に取り入れている。最近では家族の訪問が多く、話し合いの機会が増えたと管理者が喜んでいました。	このホームの「相談記録」は他に例を見ないもので、家族の言葉だけでなく対応した職員の言葉も一言一句記録している。貴重な記録なのでこれからも長く続けて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勤務の合間などでコミュニケーションをとり、スタッフの思いを聞き反映させている。	運営については細々としたものがあるが、職員にとって「運営以上に認知症ケア」である。日頃の介護記録や申し送りノートには利用者個人々人に対するケアのあり方や注意点が書いてあり皆で討議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行うなど、スタッフとしっかり話が出来た時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、個別に面談を行ったり、管理者から日常の報告を聞き、グループ内での勉強会に参加している。今年度も、積極的に外部研修にも参加して欲しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後も積極的に外部研修や法人内の勉強会に参加していきたい。また、勉強会や研修を通して学んだことを、日々の関わり等に活かせるよう、職員間で案を出し合い、より良いサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人、ご家族の方としっかり話をし、少しでも安心して頂けるよう心掛けています。また、可能な場合には入居前に会いに行き、ご本人の様子やご家族が不安に感じている事を聞かせてもらってる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いを聞かせてもらえるようしっかり話をしている。 また、面会のお願いもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分自身の想いを伝えることができる方には聞き取りを行っているが、中には難しい方もおられるのでその時にはご家族の想いを聞き、プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしていることを常に心掛け、一人ひとりが居心地がいいと思える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きやすい雰囲気、関係性をつくり、来られた際にはしっかりコミュニケーションをとり、お互いの想いを共有し合っている。また、毎月手紙を送り、面会に来られなかったご家族の方々にも分かりやすいように、生活状況を伝えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とのやりとりを大切にしている。面会に来られるご家族も多く、また、面会規制をされていない場合には親戚や友人の方等の面会もあり、その際には居室やリビングで落ち着いて過ごして頂けるよう、環境には配慮をしている。	利用者の友達が持ってきたという4つ割れの大きな大根がリビングに飾ってあった。ある利用者は、旧友からカラオケの誘いがあり出かけている。利用者の白寿の祝いには親族30名が集まりホームでお祝い会をしたと聞いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適度にスタッフが間に入ることで、入居者同士の心地よい空間作りに努めており、大切にしている。また、一人で過ごす時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、いつでも相談していただけるようご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にし、活用している。 しっかりコミュニケーションをとり、不安を取り除くように努めている。 ご家族ともこまめにコミュニケーションを図り、ミーティング等で共有し合っている。	個人記録のファイルには利用者一人ひとりの生活歴がファイルされており、全職員が共有している。それに基づいて職員は支援の中で、一人ひとりの仕事(役割)作りや環境作りをしていると感じる事が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話聞き、想いや希望の把握をしている。ミーティングだけでなく、日々の記録や申し送りノートを活用し、職員間と入居者の方々の関わりなどを通して今後の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかり関わり、小さな気づきも記録に残し、変化に気付くようにしている。 何か変わったことがあれば、その都度ご家族の方に連絡している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、ご本人やご家族の意見を基にミーティングをし、介護計画を作成している。ご家族と話をした内容はきちんと記録として残している。	利用者の担当制があり、担当者がその利用者のアセスメントをする。全員で見て協議し足りないところを補足する。最終的には家族の意見を聞いて計画作成者がプランを作成している。申し送りノートには「〇〇さんのアセスメントをしたので、皆で目を通して下さい」との記録がある。	介護記録は時間を追った生活記録になっているように思える。気付きノートも身体状態が中心になっている。利用者の生の声をもっと記録すれば、利用者の精神状態と心が把握できプランに取り入れる事が出来ると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には表情、言葉、しぐさなど、また写真など活用しながら、本人のことがよく分かるよう工夫している。 その時に居合わせなかったスタッフが記録を読んだ時に、分かるように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉やご家族の想いをしっかりと聞き、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロンへの参加を通じて、少しずつではあるが地域とのつながりを構築している。運営推進会議や地域包括支援センター主催の研修などを通じて、色々な方法を検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、かかりつけ医がいる方には受診を支援している。	家族の外部受診の希望には応じているが、施設内に母体の病院があり夜間を含め四六時中の受診が可能である。歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきも含め、情報を細かく伝えている。わからないことはすぐに相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に、ご家族、病院関係者との話し合いの場をしっかりと持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、入居時に出来ることを伝えた上で家族の思いも聞き、必要に応じてその都度話し合いをしている。	職員は、グループ全体の新人研修の時点から、終末期におけるケアについて研修を受けている。介護記録に重篤な利用者の家族との対話記録もあり、申し送りノートには「〇〇さんのターミナル記録を生活記録に綴じているので目を通して下さい」との記録が残されており、万全の対策をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな変化に気付けるようにしっかりと関わっている。 危機管理意識が低いと、委員会などを通じて意識向上をしていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体での避難訓練は定期的実施している。近隣GHで合同避難訓練も実施している。今後も継続すると共に、グループ全体で互いに応援体制を整えていきたい。災害用のガスコンロや水の備蓄を用意している。	スプリンクラーは全居室を含め要所要所に付いている。法人全体で年2回避難訓練を行い、4GHの合同消防訓練を年1回、消防署の立会いで消防訓練をしている。夜間想定避難訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ、トーンなど、十分に気を付けている。 個人情報の扱いに配慮している。	理念に「利用者の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアの提供」とあるが全職員の利用者に対しての言葉遣いは優しいし支援も丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や、その方の傍に居ることで想いに気付いたり、またご家族の話を通して、想いに応えられるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によりすぐに対応出来ないこともあるが、常に入居者の様子に気を配り、なるべく希望、想いに添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類をご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で話をしながら決めたり、行事も大切にしたいと思っている。手伝いは自主的な方もいれば、スタッフから声をかけさせてもらい、一緒に行くこともある。	リビングには厨房で作る料理の匂いが立ち込めていて生活感がある。メニューは職員が考え、食材の買い出しも職員がして、3食とも全職員がローテーションで作る。利用者は、盛付もきれいだし味もいいと言って満足そうだった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に変化のある方は、しっかりと記録に残している。 食事は皆一緒だが、量や形態を変える工夫をしている。 水分には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で行えるよう声掛けや必要な介助を行っている。 口腔ケア用品は、それぞれに適したものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	小さなサインに気付きながら、さりげない声掛けを行い、介助をしている。また、その方の状態変化に合わせて使用する下着なども全員で考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等工夫し、運動や腹部マッサージで自然排便が行えるよう促している。 (根菜類、ヨーグルト、オリゴ糖など工夫し提供)難しい方は服薬で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は決めず、一人一人に合わせている。介助者の人数も、安全で安心して入浴してもらえるよう、その人に合わせている。	寝たきりの利用者は3日に1回、その他の利用者は2日に1回入浴している。身体確認に注意しており、異常があったときは他の職員を呼んで2人で確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活ペースに合わせ、少しでも快眠や休息がとれるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や副作用についてきちんと理解が来ているかは不安がある。薬の説明書は、いつでもすぐに確認できるようにファイルに入れて保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々の状態を見ながら、散歩に出掛けたり、買い物や洗濯物たたみ等の手伝いをお願いしている。その他にも近隣GHの職員の協力で、歌会や体操を月に2～3回行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方々の状態を見ながら、散歩に出掛けたり、ドライブに出掛けている。趣味にカラオケに昔の知り合いの方と出掛ける方もいる。	外出可能な人は、恒例で初詣に出かける。友人とドライブに出かけ、帰ったら土産話してくれる人も居る。外に椅子を出してのんびりと過ごしたり、おやつを食べることもある。理念の小目標に「本人のニーズに合わせた外出」を謳っており外出の機会作りに努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理出来る方がいないので、全て施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方がおり、自由に電話をしている。他の方も希望があれば、自由にかけるようにしてる。その為にご家族の方々にも協力をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光の加減、温度など気を付け、快適に生活出来るよう工夫をしている。 入居者の作品もリビングへ飾っている。 横になってくつろげるスペースがリビングにある。また、季節ごとにインテリアを変えている。	リビングには大きめのテーブルと小さめのテーブルの2卓がある。洗濯物畳みや皆で歌うときには大きめのテーブルに集まる。一箇所に集まって歌うので声も大きく聞こえるしお互いに楽しそうだ。 作業や歌が終わると小さめのテーブルに帰って気の合う同士が話をしている。職員は利用者同士が不快を感じないようリビングでの席の配置を考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごしたり、気の合う方と過ごせる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも居心地良く過ごして頂けるように、インテリアや家具は使っていたものを持ってきていただくようお願いしている。写真や手紙なども飾っており、その人らしい空間作りを行っている。	部屋がまるで書斎のようになっていて、池波正太郎・山本周五郎・平岩弓枝の本が飾ってある。また、本屋から女性週刊誌をとって週刊誌を読んでいる人も居る。写真や絵を飾ってある部屋もあり、家族の協力を得てそれぞれの個人空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インテリアや家具の配置を工夫し、転倒の防止を行っている。 居室には表札を掛けている。		